

第3章 本市の地域福祉における課題

1. 市民アンケート調査から見える現状と課題

市民アンケート調査では、現在の困りごとは、「除雪」が最も多く、次いで「自身や家族の介護や医療のこと」「経済的なこと」が多くなっています。

また、現在は困っていないが将来不安なことは、「自身や家族の介護や医療のこと」が最も多く、次いで「除雪」「経済的なこと」が多くなっており、健常者にとっても、現状での困りごとがそのまま不安の種になっていると言えます。

地域活動については、地域の行事や地域活動に参加したことがある方が約8割にのぼり、その活動内容は「自治会の行事への参加」「コミュニティ振興会の行事」「祭り」が多くを占めています。地域活動に参加したことのない理由としては、時間的余裕やきっかけがないということが過半数ですが、前回調査に比較して、「関心がない」割合が増えています。

社会福祉協議会の活動、民生委員・児童委員の活動については多くの方が知っています。

ボランティア活動については、多くの方が参加経験を有していますが、地区以外の活動への参加は多くありません。ボランティア活動に関する広報や情報提供がいちばん大切と考えられます。また、ボランティアに参加するには、「時間的に負担の少ない活動」「体力的に負担の少ない活動」など、負担の少ないボランティア活動が望まれています。

ほとんどの地区において、福祉活動に限らず「活動や役員、民生委員などのなり手・担い手が少ない」、「世代間（幅広い世代の人々）の交流や付き合いが少ない」と回答した割合が高くなっています。また、「地域づくりを進めるための運営者やリーダーの確保」、「地域づくりを進めるにあたり住民の理解・協力を得ること」が重要と回答した割合が高くなっており、前回の調査でも確認されている担い手の確保が重要課題と考えられていますが、解決に向かっていないというのが現状と捉えることができます。

確認された現在の困りごとや将来の不安が、今後取り組むべき課題と捉え、地域活動への理解と担い手不足の解消、地域住民相互の交流と支え合い、介護や医療、経済的不安の解消、などの課題に対応していきます。

なお、アンケート結果概要版を別に掲載しています。

2. 地区意見聴取会で確認された地域の課題

市内全地区で実施した地区意見聴取では、活動の担い手不足による地域福祉の継続の困難さ及び担い手の育成、通院や買い物、除雪など日常生活面での不安への対応、困りごとなどの生活課題が出されました。また、緊急時・災害時の不安、引きこもりなど、地域で認識している新たな課題についても話し合われました。市民アンケート調査とほぼ同様の課題が認識されています。

3. 庁内計画策定ワーキンググループにより確認された課題

庁内の計画策定ワーキンググループで、酒田市の地域活動における課題について話し合いました。第3期計画までに確認された課題と、その解決のための取り組みの進捗状況を検証し、今後、取り組むべき課題について確認しました。

4. 課題解決に向けた方向性

市民アンケートや地区意見聴取会で出された様々な課題や意見、庁内計画策定ワーキンググループで確認された課題、日常の市役所窓口等における相談事例や福祉関係団体との意見交換、社会福祉協議会との話し合いなどを踏まえ、これからの酒田市の地域福祉の推進における課題の解決に向かう方向性を、次のとおりとします。

- (1) 住民同士の支えあいや助け合いへの意識を高めるとともに、福祉を我が事ととらえ、地域福祉活動に協力・参加する地区住民を拡大していく
- (2) 一人暮らし高齢者など、他者との交流が少なくなりがちな地区住民に働きかけ、交流を促進し、孤立、孤独を防止する
- (3) 複雑化、多様化している課題に速やかに対応するため、相談支援体制の拡充を図る
- (4) 地域福祉を維持するため、住民自身が地域活動の重要性を認識することで活動への参加者を増やし、また、地域活動に関わる喜びや達成感を実感することで継続した参加を促し地域リーダーや担い手を育成していく
- (5) 医療と福祉の連携を促進するため、日本海ヘルスケアネットを中心とした地域包括ケアの推進体制を構築していく

こうした方向性によって、住民同士がつながり、必要な支援を受けるために誰もが福祉とつながり、それが継続して未来につながっていく地域を作ります。